



# 消防学校 ニュース



令和6年12月号

## 女性消防吏員講習(第7回)

## ～気付きの種の収穫～

11月27日(水)から29日(金)までの3日間、女性消防吏員講習を実施し、県内7消防本部(局)から日頃は様々な業務内容に従事している8人の学生が参加しました。

この講習では、学校教育入校機会が少ない女性吏員の職域拡大を目的とし、火災防ぎよを中心とした火災救助想定訓練などの実科訓練や、外部講師(女性警察職員)を招いての女性消防職員の現状に係る座学及び事例研究を行いました。



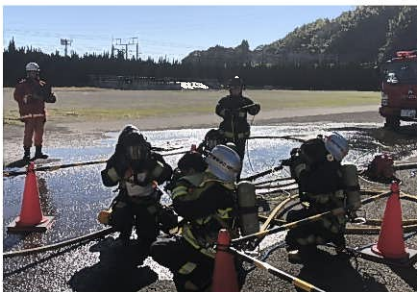
《ホットトレーニング》



《注水要領》



《小隊長指揮訓練》



《火災救助想定訓練》



《フィードバック》



《チームビルディング》

## 学生アンケート

- ・県内の女性職員と関わる機会をもらえてよかった。他消防本部の現状と課題を知ることができた。
- ・いつも自分が指示待ちになっていたことを実感し、今後やるべきことが明確になった。
- ・女性だけの隊で実施する想定訓練は非常に新鮮であり、貴重な経験となった。
- ・外部講師の話聞き、今の自分を客観視することができた。将来へのモチベーションが上がった。
- ・授業における「男性だから、女性だからではなく、消防吏員だから」という言葉が響いた。

### (担当教官から)

全講習の半分以上の時間が実科訓練という厳しい内容でしたが学生は常に前を向き、総代(掛川市消防本部戸塚学生)を中心に話し合い、見事なチームビルディングを築いていました。

日頃の所属、業務内容は様々であります。この3日間で得た気付きの「種」を持ち帰り、それぞれの場所で素晴らしい花を咲かせてくれると信じています。

また、異なる環境や年齢の職員が集まり、様々な意見や情報を交換をしてできたこの繋がりを大切に、各所属で更なる活躍をされることを願っております。

教務課主査 田畑 誠 (志太広域事務組合志太消防本部から派遣)

# 消防職員専科教育 警防科(第 19 期)



## ～信頼の積み重ねがあって今がある～

11月6日(水)から21日(木)の12日間、専科教育警防科を実施し、県内15消防本部(局)及び基隆市(台湾)から46人が参加しました。近年、暮らしの快適性と環境への配慮から、高气密・高断熱の住宅が増え、通常の火災であっても急激な変化によって、消火活動を行う隊員が危険に晒されることにもなっています。また、警防業務は急激な気候変動により多発する自然災害や特異災害等あらゆる困難に対処しなければなりません。このことから、警防業務の重要性と危険性を改めて考えていただくとともに、高度な安全管理知識を持ち、災害特性を理解し、戦術に長けた小中隊長クラスの養成を目的としたカリキュラム構成で実施しました。座学から始まり、後半は実科訓練を主体に進める中で学生は積極的に訓練に励んでいました。また、「学生企画総合訓練」では短い期間の中で訓練責任者を中心に企画から実施まで学生にとって素晴らしい成果となりました。各グループの作業では、台湾の学生から「監視(教官)がいない話し合い等で、日本の学生はしっかりと席に座りみんなの意見に耳を傾けていたり、共同で資料を作成したりする姿は驚きです。台湾では一人の作業が多く自分のことが終われば終わりです。」と言われ、文化の違いもありますが、目的に向かって取り組む警防科学生の姿は台湾の学生にも感銘を与えていました。

# Fire Suppression Course 19<sup>th</sup>





#### (担当教育から)

ここ数年火災件数はおおむね減少傾向にあると言われてはいますが、昨年中は僅かではありますが火災件数及び死傷者数も増加し、増減を繰り返しながら横這いに推移しているのが現状です。一般住宅の住環境は快適性を増すものの、建物火災による死傷者数の約9割が住宅火災となっています。このような現状に効果的な火災対応が求められる警防業務への関心は年々高まっています。今回の警防科を通じて、数年前まで初見だった知識や技術も所属にあった落とし込みを行い根付いてきていると感じました。今回入校された方々は小中隊長世代であり、知識技術の練磨に加え、様々な場面に「管理」という責任が加わります。どんな現場においても効果的な活動を行うには、必ず「人」が関わります。何事も俯瞰的な視野で安全管理がスタートラインであることを念頭に、この警防科で得た学びが自身の糧、育成、隊管理の一助となるよう期待しています。12日間という短い期間でしたが、座学や訓練を通じて学生同士の絆が深まったと感じます。目まぐるしく変化する時代の中で様々な災害対応に立ち向かうために、警防科第19期のコミュニティを大切にこれからも活躍していきましょう。最後に、警防科第19期の教育を支援していただいた全ての講師に感謝いたします。ありがとうございました。

教務課主査 永田 裕司 (菊川市消防本部から派遣)

# 中級幹部科(第38期)

11月12日(火)から21日(木)までの8日間、中級幹部科を実施し、県内13消防本部(局)から20人が入校しました。

この中級幹部科は、「中級幹部として責任、立場を理解するとともに、組織管理、社会動向等を理解し、災害等に対する確かな指揮及び対応ができること。」を到達目標としています。



期間中、近くでサポートをさせていただき、皆様が各種講義や訓練に真剣に取り組まれる姿がとても印象的でした。真摯に取り組まれる姿を目の当たりにし、こちらの身が引き締まる思いでした。

8日間という短い期間ではありましたが、本課程で得た、様々な知識や技術を今後の組織運営や部下指導に生かしていただければ幸いです。

『絆』を大切に、今後の皆様の益々の御活躍を祈念いたします。

教務課主査 山口 知宏(浜松市消防局から派遣)

# 消防団員 専科教育 警防科 (第19期)



11月24日  
(日)、県内の  
消防団から62  
人が参加し、  
ホース取扱い  
訓練や土砂災  
害対応訓練等  
を行いました。

(担当教官から) ①基本技術の再確認 ②土砂災害対応

警防訓練では、ホース延長の基本の部分である二重巻きホースと折りたたみホースの確認訓練。ポンプ車の構造と有圧水利、無圧水利からの揚水と送水技術の確認を行いました。こうした基本の部分を変更しておさえておくことが消防活動の土台であることを理解していただけたと思います。

また、近年、発生件数が増加している大雨による災害に対応するため、土砂災害対応訓練を実施しました。

入校生皆さんの真剣に取り組むその姿に、改めて消防団員の頼もしさを感じました。  
教務課主査 仲村 直樹 (下田消防本部から派遣)

## 民間防火組織指導者消防学校体験入校





11月26日(火)、民間防火組織指導者75人が消防学校に体験入校しました。初めての体験に驚きの連続だったかと思いますが、自分なりの気づきを学び、貴重な経験を得た方が多かったようです。今回習得した技術と心構えを各自の職場や家庭で活かしてくれる事を期待します。

【民間防火組織指導者とは】

住居等からの火災発生を防止するため、家庭の女性及び少年を中心に防火意識の啓発のために育成された、女性防火クラブ・少年消防クラブ・幼年消防クラブ等の指導者を指す。

教務課主任 高橋 謙一(県職員)

## 三沢校長から一言

メリーXmas?? 街を歩けばマライア・キャリーやらワム!の曲が流れ、あんまり関係のない私までもクリスマス気分させてくれます。ヤマザキのケーキ丸ごと食べたい、売れ残って半額にならんかな、程度ですが。山下達郎の「クリスマス・イブ」は失恋がモチーフなだけに、お街ではあまり聞きませんね。この曲が流れるあのJR東海のCMは素晴らしかった。深津絵里、牧瀬里穂、吉本多香美などなど、登場人物が若くてかわいくて、大好きなCMでした。有名タレントを起用する前に、モデルの加藤美紀さんが出演しており、キャンペーンで静岡駅に来たときに一緒に写真を撮ってもらったことがあります。この方もすごい美人で、顔が私の半分しかありませんでした。

さて、皆さんはいくつまでサンタさんを信じていましたか?自分のことは忘れたなら、子どもさんはどうでしょう?

うちの小僧は小学校6年まで信じていました。枕元にプレゼントをおき、翌朝うれしそうに起きてきたところで、つつい私が「まさか信じてないよな?」と余計なひとことを発し、「バカ!信じてるの!」と妻にど叱られました。あのときのキョトンとしたあとの悲しそうな顔は今でも忘れられません。

いくつになっても、信じていなくても、そこには触れずに知らんぶり、が無難ですかね。

年末年始は寒くなる予報が出ています。風邪などひかぬよう、よいお年をお迎えください。

新年は、1月7日の救急科(リモート)から始動です。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索